

山田町

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>1 秋サケの資源回復について</p> <p>本県の秋サケ漁は、ピーク時には数量で7万トン（平成8年度）、金額で240億円（平成4年度）を超えるまでに発展いたしました。</p> <p>しかしながら、平成9年度以降、県内の漁獲量は減少傾向にあり、東日本大震災後は、平成25年度と平成26年度を除き、1万トンを下回る深刻な状況となっています。</p> <p>また、本町では、平成22年度から河川遡上尾数が極端に減少し、漁協のふ化放流事業は大きな影響を受けています。不漁の要因は、気候変動によるもののほか、サケ稚魚の沿岸滞留期における減耗も要因の一つとして考えられており、その原因解明と回帰率の向上に向けた新たな取り組みが求められています。</p> <p>つきましては、引き続き調査・研究・指導に取り組み、早期に資源回復が実現されますよう、特段のご高配をお願いいたします。</p>	<p>秋サケの不漁要因は地球規模の気候変動によるもののほか、放流直後からオホーツク海に至るまでの稚魚の減耗も要因の一つと考えられていることから、県は平成24年度から、国の研究機関や大学と連携し、山田湾をフィールドとして、放流直後の減耗要因を解明すべく、複合的放流技術の実証研究に取り組んでいます。</p> <p>また、平成25年度からは国や北海道の研究機関と連携し、稚魚の回遊経路と時期及び魚体サイズに関する共同研究を実施し、減耗要因の解明に取り組んできました。これら共同研究は平成29年度に終了しますが、来年度以降、成果を活用して沿岸域でのサケ稚魚減耗回避技術の開発について、国の研究機関や大学と連携して取り組んでいきます。</p> <p>さらに、回帰率の向上を図るため、平成26年度、釜石市に「サケ大規模実証試験施設」を整備し、サケ稚魚の初期生残を高めるための飼育管理技術や放流技術の改良等について事業規模で試験を実施しています。</p> <p>一方、平成30年度に回帰する秋サケは、ふ化場の復旧過程で放流数が減少した25年級が5歳魚で回帰すること及び全国的な不漁傾向から、昨年と同様に少ないと考えられるため、引き続き業界団体と連携して確実な種卵の確保に取り組んでいきます。</p> <p>秋サケ不漁要因の解明には、回遊海域全体にわたる広域的調査が必要なことから、国に対して資源変動要因の解明及び環境変動に対応するための対策等を要望しているところです。</p> <p>また、県としては、サケ稚魚減耗要因の解明と資源の早期回復を図るため、引き続き調査・研究・指導を行うとともに、健康な稚魚の放流に向け、増殖事業関係団体と連携しながら、飼育池毎の適正な飼育管理や適期・適サイズ放流の徹底などに取り組んでいきます。</p>	沿岸広域振興局	水産部	B

山田町

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>2 防潮堤及び水門の早期完成について</p> <p>東日本大震災で発生した大津波は、本町に甚大な被害をもたらした。防潮堤や水門も大きく被災しました。</p> <p>県におかれましては、「社会資本の復旧・復興ロードマップ」のスケジュールに沿って、防潮堤及び水門の整備を進めており、平成28年度中にすべての地区で工事が発注され、事業の進捗が図られています。</p> <p>しかしながら、堤体の築造など目に見える形で整備が進んでいない地区もあり、地域住民から安全・安心の新たなまちづくりの基礎となる防潮堤や水門の早期完成が求められています。</p> <p>つきましては、実情をご賢察され、津波から住民の生命・財産を守るため、防潮堤及び水門の早期完成について、特段のご高配をお願いいたします。</p>	<p>東日本大震災津波により被災した防潮堤及び無堤区間については、災害復旧事業、海岸高潮対策事業により復旧・整備を進めているところであり、工事の進捗を図るため工程管理に万全を期すなど、引き続き、早期完成を目指していきます。</p> <p>大沢川、関口川及び織笠川の水門についても平成27年度に水門本体土木工事、設備工事を契約し、現在、早期の効果発現を目指し、3水門とも地盤改良及び基礎工事を進めています。</p>	沿岸広域振興局	水産部、土木部	B
<p>3 町内二級河川の適正な維持管理について</p> <p>町内二級河川は、これまでの大雨や洪水などの影響から、河床に土砂の堆積が多く見られるほか、雑木や雑草が生い茂っているため河道が狭くなっている箇所もあり、川の流れが阻害されている状況です。</p> <p>過去の大雨では、河川の増水により越水した地域もあったことなどから、地域住民より治水対策への強い要望がありました。</p> <p>なかでも、町で整備を進めている柳沢北浜地区土地区画整理事業区域の中心を流れる二級河川関口川や沿川に住宅が建ち並ぶ二級河川津軽石川については、大雨により河川が増水するたびに、地域住民は浸水への不安を抱えております。</p> <p>つきましては、以上の実情をご賢察され、洪水等災害を未然に防止し、安全で安心な生活環境の整備を図るため、河床の土砂浚渫、河川内の雑木の除伐など、町内二級河川を適正に維持管理されますよう、特段のご高配をお願いいたします。</p>	<p>関口川については河川パトロール等においても、土砂の堆積等により河道が狭くなっていることを確認しており、今年度、雑木除去と土砂撤去を行う予定です。</p> <p>津軽石川のほか町内の県管理河川についても、河床の土砂や支障木の除去について、現地の状況を把握しながら、引き続き適切な河川管理に努めていきます。</p>	沿岸広域振興局	土木部	B

山田町

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>4 県立山田病院の診療体制の充実について</p> <p>平成28年9月に移転新設された県立山田病院が、入院機能を持った町の中心的医療機関としての役割を担うためには、診療体制の充実が必要不可欠であります。</p> <p>つきましては、住民が安心して医療サービスを受けられるよう、次に掲げる事項について特段のご高配をお願いいたします。</p> <p>(1) 内科及び外科の常勤医師の配置を維持し、診療応援を継続しながら、診療科目の充実を図ること。</p> <p>(2) 現在、診療応援を行っている整形外科については、常勤の医師を配置し、リハビリテーションが行える人員体制と環境を整えること。</p> <p>(3) 入院機能が十分に活かせるよう、日当直医及び看護師等の医療スタッフを確保すること。</p>	<p>県立山田病院の内科、外科医師の常勤体制の維持及び日当直の確保については、常勤医師の確保に加え、関係大学や他の県立病院からの診療応援等により、引き続き必要な診療体制の確保に取り組んでいきます。</p> <p>整形外科の常勤医師の配置については、派遣元である大学においても医師の絶対数が不足しており非常に厳しい状況となっています。</p> <p>県においては、関係大学を訪問し医師の派遣を要請するほか、即戦力となる医師の招聘や奨学金養成医師の計画的な配置等に努めながら、必要な医療が提供できるよう医師の確保に取り組んでいきます。</p> <p>リハビリテーション職員の配置については、診療機能等を勘案しながら、患者数や業務量等に応じて配置することとしており、地域の実情等にも十分配慮しながら、必要な職員を確保することとしています。</p> <p>看護師等の職員配置については、診療機能等を勘案しながら、患者数や業務量等に応じて配置することとしており、地域の実情等にも十分配慮しながら、必要な職員の確保に努めていきます。</p>	<p>沿岸広域振興局</p>	<p>経営企画部</p>	<p>B</p>